

第3回宇宙領域アドバイザリーボード
議事概要

1 日時等

- (1) 日時：令和8年7月28日（火）16時00分～17時30分
- (2) 場所：防衛省第1省議室
- (3) 出席者：

【委員】

山川 宏（国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事長）[座長]
遠藤 典子（早稲田大学研究院 教授）
木村 康則（国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
上席フェロー）
小泉 悠（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）
瀧口 太（国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事）
豊嶋 守生（国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）ネットワーク研究所
ワイヤレスネットワーク研究センター主管研究員）
森 聡（慶應義塾大学法学部 教授）

【防衛省】

事務次官、サイバーセキュリティ・情報化審議官、整備計画局参事官（宇宙担当）、
調査課情報運用企画室長

（防衛装備庁）

装備政策課総括企画官、事業監理官（宇宙・地上装備担当）、革新技術戦略官、
技術計画官

（統合幕僚監部）

計画課長、運用第1課長

（海上幕僚監部）

防衛課防衛調整官

（航空幕僚監部）

防衛課防衛調整官、事業計画第2課長

2 議題

宇宙領域における施策を下支えする総合的な取組等について

3 議事概要

「防衛と経済の好循環」及び「防衛イノベーションの促進に向けた国研・大学等との連携強化」について防衛省から説明、「光衛星通信に関する最新動向」について委員から説明した後、討議を実施

4 各委員からの意見

- 防衛力強化のための投資により防衛と経済の好循環を作り出すことは良い方針であり、経済産業省やその他関係省庁との連携も重要。海外では、関係省庁間の連携や産業界との距離が近い環境を背景として、スタートアップの活用が迅速に進められている事例もある。
- 日本の研究開発は、縦割りや分野間の連携不足により、優れた成果が必ずしも社会全体に展開・蓄積されていない面がある。特に防衛分野においては、目的志向の下で横断的な連携を促進し、縦割りに陥らない研究体制を構築することが重要。
- 国産化にあたっては、オールジャパンでの技術の結集が重要。また、企業単独での実施は困難であるため、国立研究開発法人による技術提供や支援が重要。また防衛省事業においては高い成熟度まで技術や企業を育成していく視点も重要。
- 本分野は国際的にも標準化には至っておらず、日本としても必要な技術実証を先導的に進めるとともに、欧州の通信規格コミュニティ等と連携しながら標準化に参画していくことが必要。
- 技術的課題への対応に加え、従来の発想にとらわれない革新的な構想についても、研究開発プログラムの整備と並行して検討する余地がある。

以 上